2022年10月30日  川越教会

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　丸山　勉

新世界より

［ルカによる福音書16～30節］

イエスはお育ちになったナザレに来て、いつものとおり安息日に会堂に入り、聖書を朗読しようとしてお立ちになった。預言者イザヤの巻物が渡され、お開きになると、次のように書いてある個所が目に留まった。

「主の霊がわたしの上におられる。貧しい人に福音を告げ知らせるために、主がわたしに油を注がれたからである。

主がわたしを遣わされたのは、 捕らわれている人に解放を、目の見えない人に視力の回復を告げ、圧迫されている人を自由にし、主の恵みの年を告げるためである。」

イエスは巻物を巻き、係の者に返して席に座られた。会堂にいるすべての人の目がイエスに注がれていた。そこでイエスは、「この聖書の言葉は、今日、あなたがたが耳にしたとき、実現した」と話し始められた。皆はイエスをほめ、その口から出る恵み深い言葉に驚いて言った。「この人はヨセフの子ではないか。」イエスは言われた。「きっと、あなたがたは、『医者よ、自分自身を治せ』ということわざを引いて、『カファルナウムでいろいろなことをしたと聞いたが、郷里のここでもしてくれ』と言うにちがいない。」そして、言われた。「はっきり言っておく。預言者は、自分の故郷では歓迎されないものだ。確かに言っておく。エリヤの時代に三年六か月の間、雨が降らず、その地方一帯に大飢饉が起こったとき、イスラエルには多くのやもめがいたが、エリヤはその中のだれのもとにも遣わされないで、シドン地方のサレプタのやもめのもとにだけ遣わされた。また、預言者エリシャの時代に、イスラエルには重い皮膚病を患っている人が多くいたが、シリア人ナアマンのほかはだれも清くされなかった。」これを聞いた会堂内の人々は皆憤慨し、総立ちになって、イエスを町の外へ追い出し、町が建っている山の崖まで連れて行き、突き落とそうとした。しかし、イエスは人々の間を通り抜けて立ち去られた。

 [１] 神様の言葉の成就

今日から教会の暦では待降節―アドベント―が始まります。アドベントとは、ラテン語で「到来」の意味です。救い主の到来を「待つ」という4週間が始まりました。この「待つ」というところから、教会の新しい一年が始まる。2023年の元旦を待つまでもなく、この日から新しい年を迎えると言っても良いのです。

今日はルカ福音書の4章から読んで頂きました。これはクリスマスの話ではなく、もうイエス・キリストは大人となり、洗礼も受けられ、公の場で宣教を始められた、その初めの頃の出来事が記されています。3章23節を見ると「イエスが宣教を始められた時はおよそ三十歳であった」とあります。その後、4章に入ると四十日間悪魔から誘惑を受けられるという物語がありますが、それについては新年になった1月にご一緒に見ます。今日の物語は、イエス様が子供の頃から過ごされていたナザレという村にあるユダヤ人の会堂での出来事が発端になっています。イエス様は、いきなり大人の姿で地上に到来して来たのではなく、両親の許で成長してきました。そして、多くのユダヤ人と同様、旧約聖書を学び、安息日にはユダヤ人の会堂でその律法の書や預言の書の朗読やその解き明かしを聞いて過ごしました。「いつものように安息日に会堂に入り」とありますが、この日はイエス様に預言の書を読んでもらおうと、イザヤ書の巻物を渡したというのです。そこでイエス様が朗読されたのが、イザヤ書の61章の頭の部分でした。ルカ4:18～19節です。この部分、元のイザヤ書の文言からは、ある部分を割愛しています。それについては後で触れたいと思います。そしてお読みになった後で、こうおっしゃいました。21節。「この聖書の言葉は、今日、あなたがたが耳にしたとき、実現した」。今日の箇所の中でも大事な聖句だと思います。そう、聖書の言葉というのは、神様の約束の言葉ですから、必ず「出来事」となるのです。無責任な言葉ではなく、成就する！虚しくならない。このイザヤの預言は、今あなたがたが耳にしたこの時、成就した、とイエス様はおっしゃるのです。

[2] 偏狭さにとどまるな

今日、待降節の最初の日にこの箇所を読むことが出来ることを私は嬉しいことだと思いました。「すべての人を救うまことの光」、「救いの歴史を完成する者としてメシア・救い主がこの地上に立つ」という旧約の時代からの預言は成就した、その方こそ主イエス・キリストだと聖書は語っています。キリストご自身が神の言葉の成就です。新約の時代になってそれは実現したと。ですから、「待つ」ということ、待ち続けるということは、ある意味忍耐が必要なのですけれども、その忍耐する力も神様の約束が確かであるからそこから与えられるのです。神様は、私たちに「信じてバカを見た」などとは言わせないお方です！

問題は、その信じ方です。ルカ4章のナザレの人々は、イエス様を昔から知っていました。立派なことを言うようになったけれども「この人はヨセフの子供ではないか」（22節）と、そういう感覚です。近すぎてしまう誘惑と言いますか、「ああ、彼のことは昔から知っているよ」という感覚ですね。イエス様を自分の手中に納めてしまう、と言い換えたら良いでしょうか。ですから、ここでイエス様はそういう感覚の中にメスを入れるのです。実は私はあなたがたの理解が及ばない者なのだよ、もしあなたがたがもう私のことなど知っていると言うのなら、そこに留まり、私がもたらそうとする新しい世界の中に入ってくることが出来なくなってしまうよと言わんばかりに、一つのことを語るのです。それは旧約聖書の預言者のエリヤとエリシャが、ユダヤ人の枠を超えて、サレプタの女性を救ったり（エリヤ）、シリアの将軍だったナアマンの皮膚病を癒された（エリシャ）その事実を語ったのです。その理由は、自分たちユダヤ人のための救いだけを考え、むしろ他の民族に対して見下してさえいたその宗教的偏狭さをイエス様は見抜かれたからだと思います。そのようなメシア待望であるならば、それは自分都合のメシアですね。そのようなメシアは、役立たなくなれば、おもちゃのようにお払い箱になってしまう。実際28節以下には、イエス様の言葉を聞いた会堂内の人々は「皆憤慨し、総立ちになってイエスを町の外に追い出し、町が建っている山の崖まで連れて行き、突き落とそうとした」とあります。しかしこの時は、イエス様は守られて人々の間を通る抜けることが出来たとありますけれども、ここからイエス様の受難は始まったと言っても良いのです。イエス様の言葉は人々の心にはつまずきを与えた。それでもイエス様は、語るべきことは語られたのです。

[3] わたしの愛の中に生き、祈れ

ここで、会堂内でイエス様が読まれた、「メシア預言」と言われるイザヤ書61章1～2節に当たる部分が引用されているルカ4章18～19節を改めて見てみましょう。こうありました。―「主の霊がわたしの上におられる。貧しい人に福音を告げ知らせるために、主がわたしに油を注がれたからである。主がわたしを遣わされたのは、 捕らわれている人に解放を、目の見えない人に視力の回復を告げ、圧迫されている人を自由にし、主の恵みの年を告げるためである。」ここでは、貧しい者も福音を聞くということ、また捕われている者が解放されるということ、また盲目だった者の目が開け、圧力をかけられ沈黙させられている者たちが自由にされるという、新しい時代の幕開けがメシア到来と共に開けるのだ、と告げています。特にこの「主の恵みの年を告げる」というのは、レビ記25章にある「ヨベルの大解放」をイメージさせます。借りていた負債も帳消しになる年。土地も戻って来るし、奴隷であった者も自由とされるという驚くべき「神様の恵みの年」の訪れです。50年に一度巡ってくるというのですが、実際にこの通りのことが行われていたかどうかは疑問に思う人々もいます。しかし、イエス・キリストが私たちを全く解放して下さる、いや、解放して下さったというのは本当のことではないでしょうか？主が私たちを救って下さるというのは、金銭的に助かるとか、肉体が癒されるとか、それが第一義ではありません。それは救いの一部であると思いますけれども、実はもっと大きなことがあります。

イザヤ書61章の言葉をイエス様は朗読したと申しましたが、イエス様はある部分を省かれました。イザヤ書61章2節はこうなっています。―「主が恵みをお与えになる年。わたしたちの神が報復される日を告知して、嘆いている人を慰め」云々。イエス様は、「神が報復される日を告知し」という部分を外されました。イエス様が来られる前までは報復が足り前だったと言って良いと思います。旧約の歴史には争いが多いのも事実です。それはある意味「選民意識」に基づいています。ユダヤ人こそ神の民だと。それに対して、イエス様は、新しい世界から呼びかけるのです。もう裁き合う時代は終わるのだ、「報復」という、互いの正しさを主張することによって傷つけ合うことはもうするな。わたしはあなたがたの心に、魂に、働きかける。「あなたの敵を愛し、あなたを迫害する者のために祈れ」（マタイ5:44）。そう、イエス様は、私たちの罪を赦して下さったのです。私たち弱い者、自己中心な者、罪深い者を、丸ごと受け入れて下さったのです！それがあの十字架ではないでしょうか？「父よ、彼らを赦し給え。その為す所を**知らざればなり**」（ルカ23:34 文語訳）。

今年の10大ニュースが選ばれるとすれば、国際ニュースの一位は、ウクライナでの戦争が始まり、今だ犠牲者が増え続けているということでしょう。酷い話です。酷い話ですが、他者を叩くことによって自分を護ろうとする心は誰にもあるのだと思います。イエス様は見抜いておられます。「わたしはあなたの心を知っているよ。でも、私はあなたを愛している。わたしの愛の中に生きなさい。報復することをやめなさい。もうわたしがあなたと共にいることによって、新世界が訪れているのだから、わたしに信頼して祈りなさい、神の国の約束は必ず成就するだから」とおっしゃっているのではないでしょうか？

主イエスは、私たちの手中には収めきれない大きいお方です。だから「救い主」なのです。アドベント。それは教会の新年の始まりです。このクリスマス、祈りつつ共に主を迎え、私たち自身を新しく導いて頂きましょう！お祈り致します。

　主エス・キリストの父なる神様、今日は午前中ではなく、午後の時間になりましたけれども、このようにご一緒に礼拝を守ることが赦されて感謝致します。今日、私たちは、新世界に立つイエス様からの声を聞きました。それは主のご降誕を待つ私たちに、忍耐すること、しかしまた、本当に心ときめかせながら御子の誕生を待ち望むことへと呼びかけて下さいます。あなたの約束は、反故にされるされることはありませんから、どうぞ今この時、あなたに深く信頼して生きることが出来ますように。この世があなたの赦しの上にあり、それを信じてあらゆる報復から自由にして下さい。主イエス・キリストによって祈ります。アーメン。